
仕 様 書

型式 CLSC2SWF-06
品名 煤除去装置

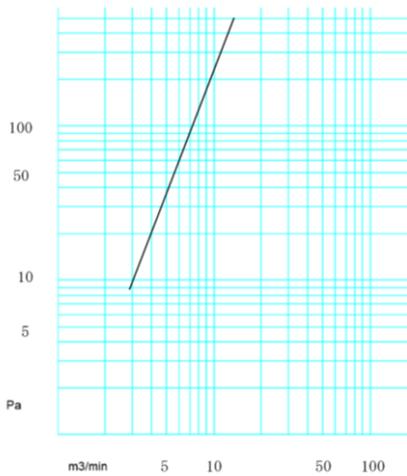
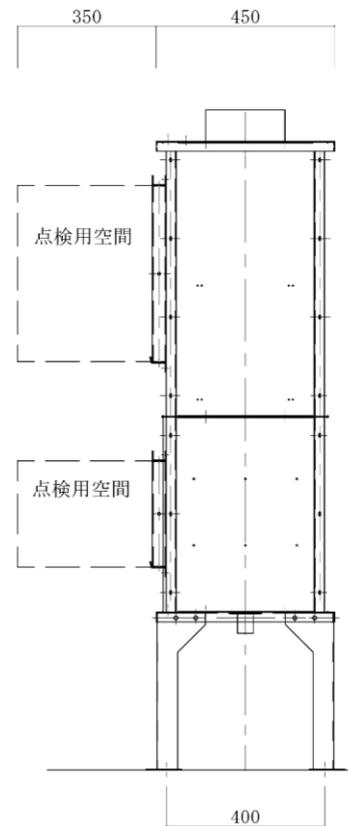
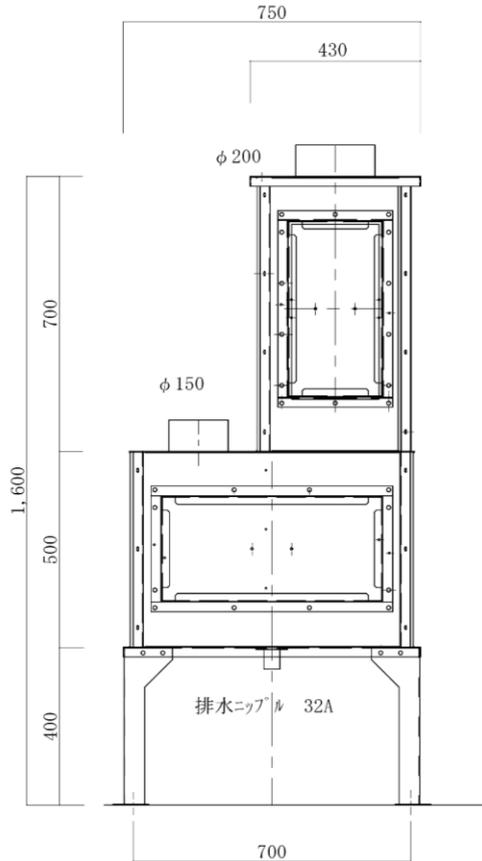
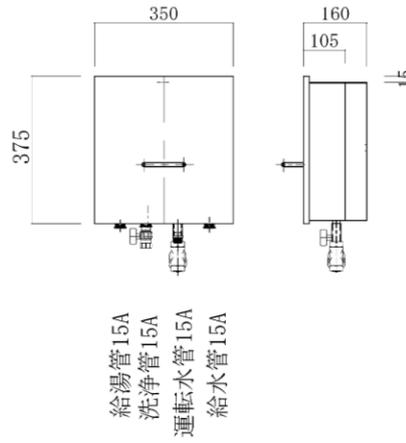
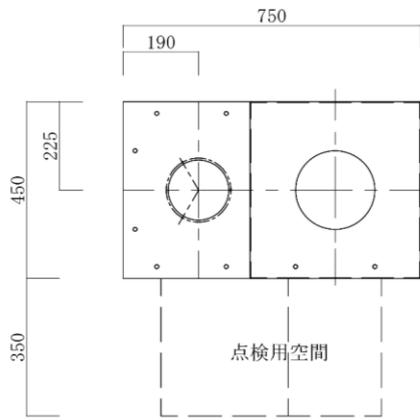
CLIE株式会社クリエ

本社：〒431-2102静岡県浜松市浜北区貴布祢3000

TEL:053-401-5881 Fax:053-401-5882

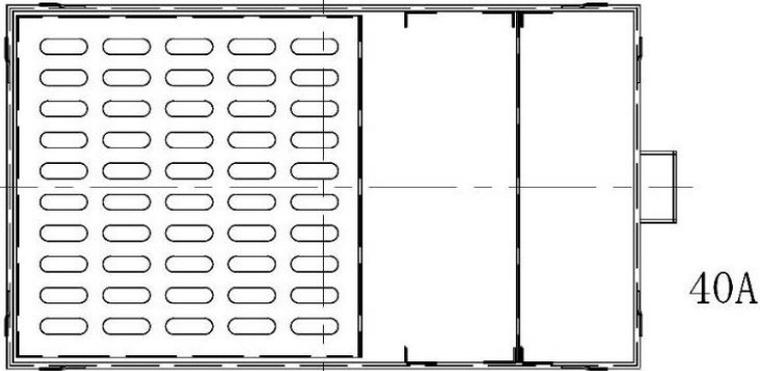
工場：〒932-0836富山県小矢部市埴生2793

TEL:0766-67-4898 Fax:0766-67-4988

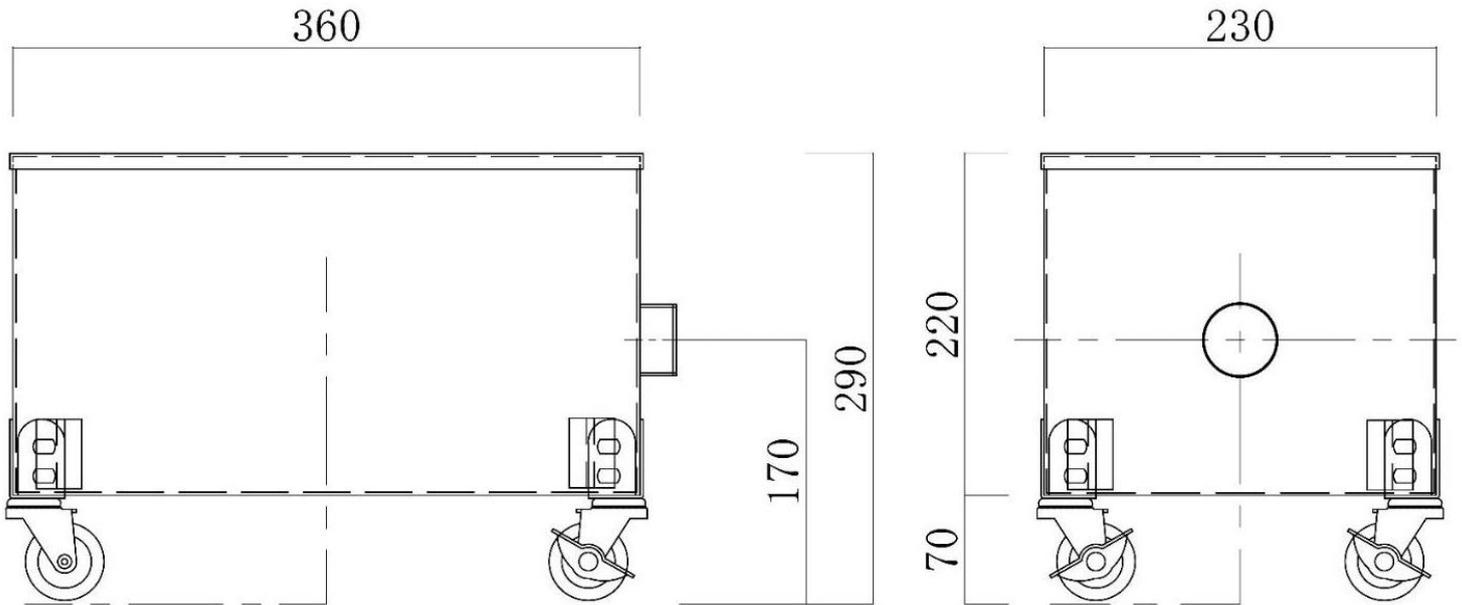


本体使用材料	SUS304 t1.5
本体内部部材	SUS304 t 1.0
支持足	SUS304 t 1.5
電磁弁	鍛造HC-20
噴霧ノズル	SUS316
内部配管	SUS304
Yストレーナー	黄銅
制御BOX	ガルバ鋼板 t 1.0(SUS可)

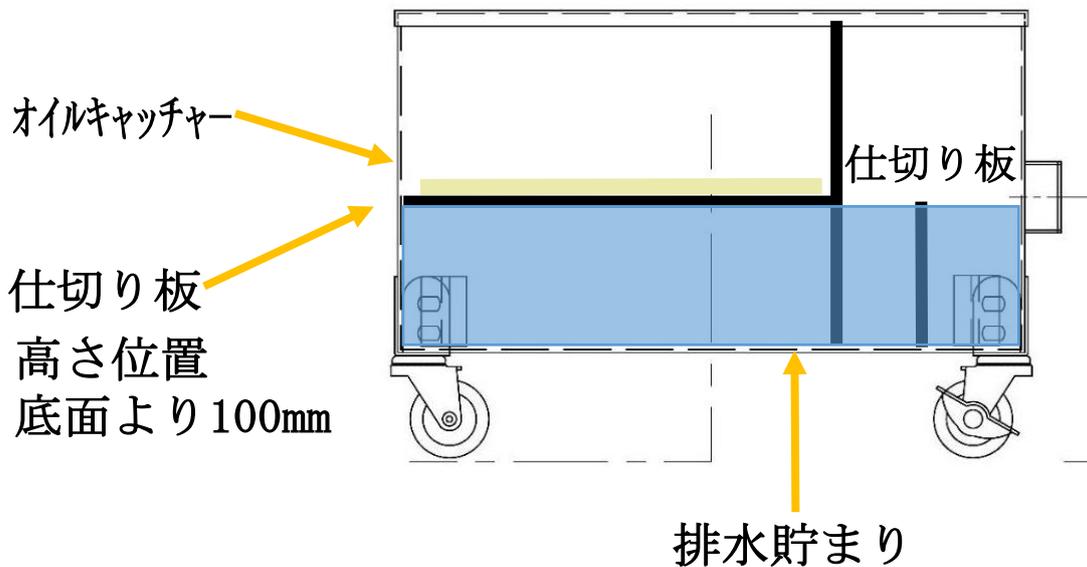
外形寸法	750×450×1,600
Max処理風量	10m ³ /min
製品重量	102kg
接続口径	Φ 150
出口口径	Φ 200 (Φ 150)
給水口径	15A
排水口径	32A (排水ジャバラ内径30A)
運転時水量	0.2L/min
洗浄時水量	10L/min
電磁弁	AC100V 6W



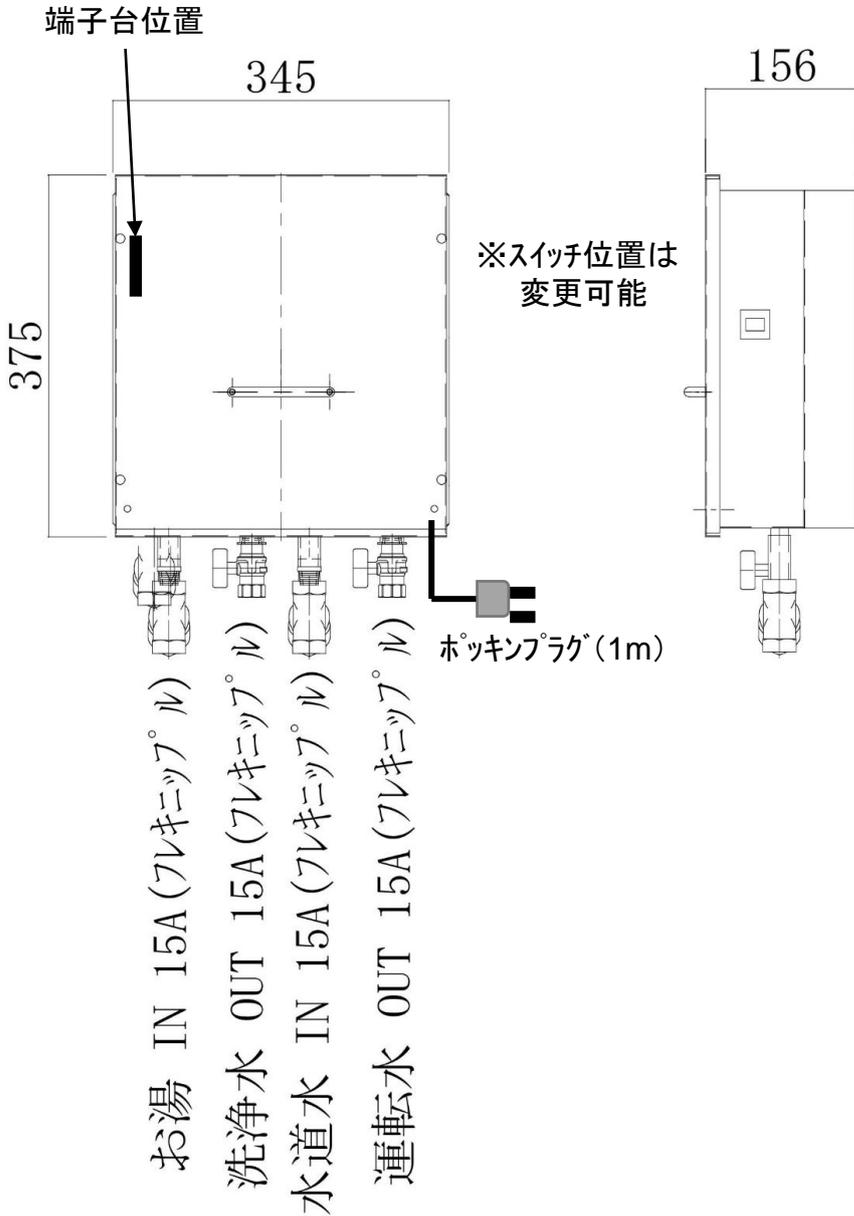
本体外形寸法	360×290×230
排水接続	40A
材質	SUS 304 t1.5
製品重量	5.2kg
標準付属品	排水フレキホース 1m
	オイルキャッチャー 5枚



※キャスター脱着可能
 ※ストッパー付き



制御BOX

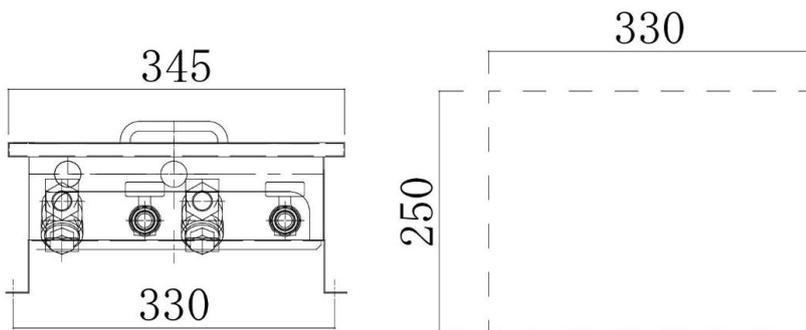


本体外形寸法	345×375×156
本体使用材質	ガルバ鋼板 t1.0
内部配管材質	ステンレス管
給水接続口径	15A
運転給水口径	15A
洗浄給水口径	15A
本体電源	100Vコンセント仕様(1m)
電磁弁	AC100V 6W
製品重量	5.0Kg

※取付位置1m以内にコンセントを設ける

- ※異常高温時作動信号
- ※運転管理信号
- ※洗浄作動信号
- ※外部ファンによる機械の連動
- ※スイッチの別置き
- ※電気信号は、その都度ご指示ください。

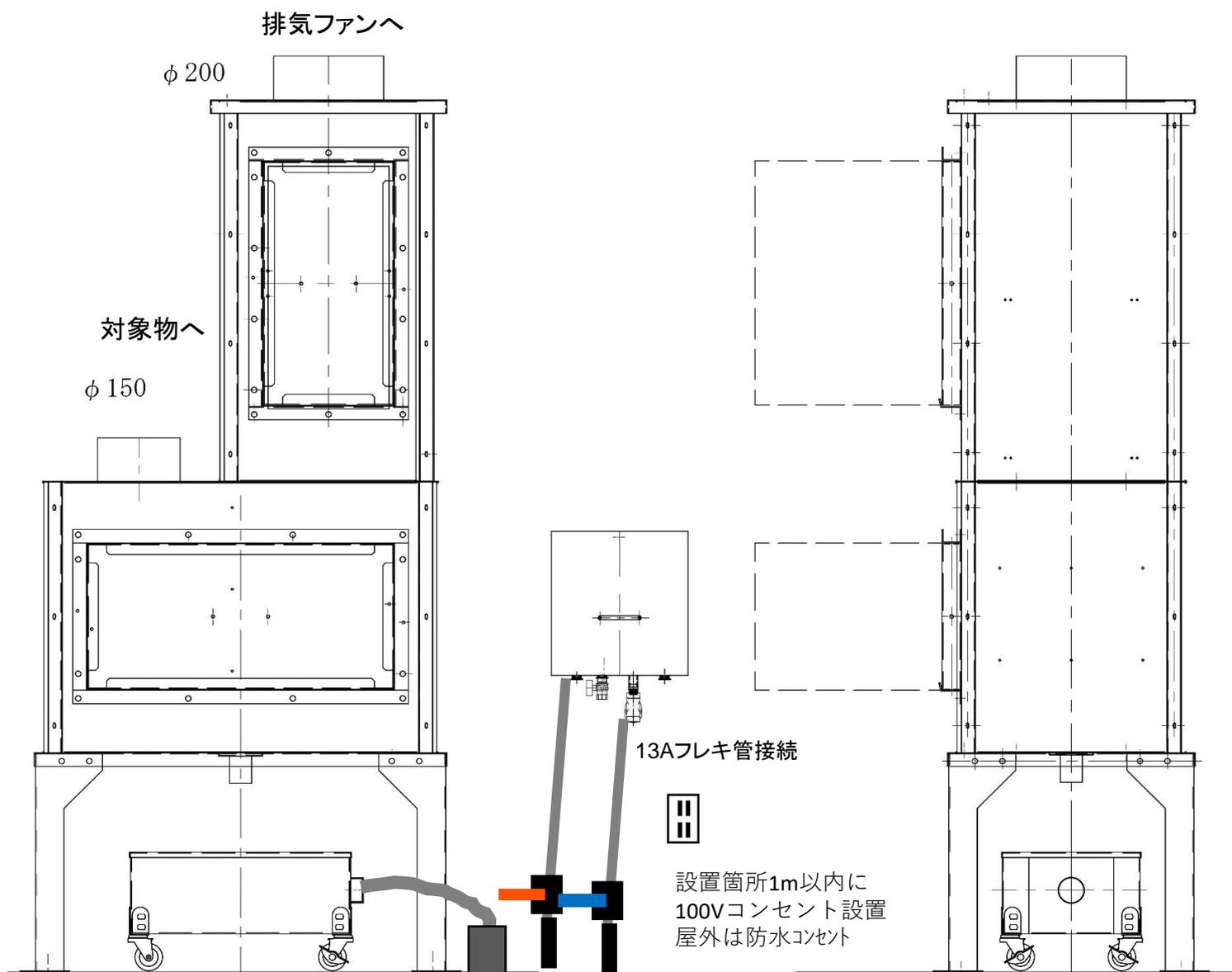
※仕様により制御BOXのサイズが変更となる場合がございます。



取付穴寸法

型式 CLC1S

設置図例



給湯、給水元バルブ設置

排水設置

耐震強度計算書(アンカーボルト)

建築設備耐震設計・施工指針2014年版による

1. 機種 = 煤除去装置
2. 形名 = CLSN2SW

3. 機器緒元

- (1) ①機器質量: $M = 102 \text{ kg}$
②機器重量: $W = M \times 10/1000 = 1.02 \text{ kN}$
- (2) アンカーボルト
①総本数: $N = 4 \text{ 本}$
②ボルト径: d (呼称) 10 M
③一本あたりの軸断面積(呼径による断面積) $A = 0.785 \text{ cm}^2$
④機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルト総本数
 $N_t = 2 \text{ 本}$
- (3) 据え付け面より機器重心までの高さ $h_G = 65 \text{ cm}$
- (4) 長辺重心位置 $LG(\text{長辺}) = 35 \text{ cm}$
- (5) 短辺重心位置 $LG(\text{短辺}) = 20 \text{ cm}$
- (6) ボルトスパン $L(\text{長辺}) = 70 \text{ cm}$
- (7) ボルトスパン $L(\text{短辺}) = 40 \text{ cm}$

4. 検討計算(各項を四捨五入して算出)

- (1) 設計用水平震度: $K_H \quad K_H = 1.5$
- (2) 設計用水平地震力: $F_H \quad F_H = K_H \times W = 1.2 \text{ kN}$
- (3) 設計用鉛直地震力: $F_V \quad F_V = 1/2 \times F_H = 0.6 \text{ kN}$
- (4) 長辺方向アンカーボルトの1本当当たりの引き抜き力: R_b
 $R_b = \{F_H \cdot h_G - (W - F_V) \cdot LG\} / \{L \cdot N_t\} = 0.38 \text{ kN}$
 $0.38 \text{ kN} < 3.8 \text{ kN}$ (選択したアンカーボルトによる許容引き抜き加重)
従って 可
- (5) 短辺方向アンカーボルトの1本当当たりの引き抜き力: R_b
 $R_b = \{F_H \cdot h_G - (W - F_V) \cdot LG\} / \{L \cdot N_t\} = 0.69 \text{ kN}$
 $0.69 \text{ kN} < 3.8 \text{ kN}$ (選択したアンカーボルトによる許容引き抜き加重)
従って 可
- (6) アンカーボルトの1本当当たりに作用するせん断力: τ
 $\tau = F_H / N \cdot A = 0.28 \text{ kN}$
 $0.28 \text{ kN/cm}^2 < 4.4 \text{ kN/cm}^2$
従って 可

以上の計算より、アンカーボルトは十分な強度を有する。